

富山女子短大

金岡トモコ

持ち家保有率・戸建て率・住宅延べ床面積いづれも日本一を誇る県にあって特有の住感覚を持つ県民に対し、長寿社会の住宅の在り方を具体的に提示すべく基礎資料とするために意識調査（調査対象者 981名）をした。住まいの中で滑りやすいと思われる場所として①浴室（42%）②階段（40%）③廊下（21%）、つまづき易い場所として階段（29%）玄関の段差（22%）を挙げ、実際に事故があった場所として階段や玄関を挙げている。また現在不要または過大と思われるところとして、住宅が大きすぎる（30%）座敷（29%）庭（25%）を指摘しているが、より拡大化し続き間を絶対必要と考える現実の住意識との落差にこの県の特徴をみる。もし新しく住宅を選ぶ際に重視する点として、環境については緑が多く静かな住宅地、生活利便施設が近いことが同率（35%）で高く、次いで災害に対する安全性を挙げている。住宅は冬場の雪処理がしやすい（34%）日照・通風が十分である（30%）広さ・間取りが適当である（25%）を望んでいる。さらに老後安全で健康な暮らしができる住宅として考える時、日当たりが十分に確保（38%）間取りが使い易く設備も機能的で便利（26%）火事が起きにくく避難が容易（20%）と快適性・機能性と安全性を重視していることが認められる。また将来寝たきりになるなど自分だけで生活ができなくなった場合の身の処置として、やはり現在の住まいで生活を希望するものが多く（44%）、次いで老人ホーム等の施設に移るとしている。老親の扶養の責任を長子とする考え方はまだ41%みられる。このように矛盾し輻輳した意識が富山県の今後の住対策を難しいものに行っていると思われる。